

ニュースレター

1号



京都市内を流れる賀茂川。人々が憩い、様々な生きものすみかとなっています。

CONTENTS

設立のご挨拶・きょうと生物多様性センターとは？	2
きょうと生物多様性センター設立記念シンポジウム	3
「きょうと☆いきものフェス！2023」初開催！	4
令和5年度活動トピックス	5・6





設立のご挨拶



きょうと生物多様性センター
センター長 湯本 貴和

きょうと生物多様性センターは、令和5年4月に京都府と京都市の協働により設置され、府民、保全団体、企業、研究機関等が一体となり、生物多様性の保全と持続可能な利用を推進する取組をスタートさせました。設置から約1年が経過し、この度、第1号となる広報誌を発行できたことを嬉しく思います。

これまで、京都の生物相解明やモニタリングを主目的とする公的機関がなかった中で、当センターでは、①収集：生物多様性情報の収集・データベース化、②利活用：多様な主体のネットワーク形成や活動支援、③継承：環境学習や担い手育成、情報発信に取り組み、京都における生物多様性の拠点となることを目指しています。

この間、ご支援、ご協力いただきました関係者の皆様、生物多様性保全にご尽力いただいております保全団体、企業の皆様をはじめ、あらゆる皆様方にこの場をお借りしまして、改めて御礼申し上げます。

当センターでは、生物多様性への配慮がこれからも京都の暮らしや伝統・文化と共にあるよう、一層の取組を推進して参ります。



きょうと生物多様性センターとは？

当センターは、京都の伝統・文化や暮らしを支えてきた「京都の自然の恵み」を守り、次世代につないでいくため設立しました。京都府内の生物多様性に関する情報を正確かつ継続的に把握し、収集された知見を基に、生物多様性に係る理解促進や担い手育成、地域や企業の保全活動の支援等を行うとともに、保全に係る様々な主体の連携・協働関係を構築することを目的としています。

センターの運営体制

- 設置母体：京都府、京都市（府市協働で設置）
- 名誉センター長：山極 寿一（総合地球環境学研究所 所長（京都大学名誉教授））
- センター長：湯本 貴和（当センター運営協議会 会長（京都大学名誉教授））
- 運営主体：きょうと生物多様性センター運営協議会

事業内容・機能

- 収集**
- 分布等の生物多様性情報の集積・データベース化機能
 - 各主体における標本・文献等資料の保有状況の把握

- 利活用**
- 多様な主体*のネットワーク形成機能
 - 多様な主体との連携による保全活動のコーディネート機能
 - 多様な主体の保全活動や事業の際の環境配慮等に関する相談機能
 - 民間企業等に対する情報と専門的知識に基づく助言・提案機能
 - 民間企業や保全団体等の保全活動や啓発等の支援及び受託
 - 生物多様性に係る調査・研究

※民間企業や大学等研究機関、保全団体、府民等

- 継承**
- 資料や情報を活用した環境学習、担い手育成及び情報発信機能

本部オフィス



京都府立植物園会館
(事務機能、コーディネート)

交流オフィス



京都市左京区役所
(ネットワーク形成、情報発信)

情報オフィス



京都府立大学
(生物多様性情報の集積・データベース化)

京都の暮らしや文化と生物多様性の恵み

～暮らしの豊かさを支えるものとは～

令和5年7月21日、当センターの設立を記念し、「京都の暮らしや文化と生物多様性の恵み～暮らしの豊かさを支えるものとは～」をテーマにシンポジウムを開催しました。

山極壽一名誉センター長による基調講演に続き、生きものの魅力の発信や生物多様性保全に取り組まれている方々からの取組紹介、そして「生物多様性の課題」や「私たちに何ができるか」を参加者の皆様と一緒に考える意見交換を行いました。

当日は、オンライン視聴も含め500名を超える方々にご参加いただき、「気候変動問題における気温上昇のように、生物多様性保全においても分かりやすい数値や目標を示すと関心を持つ人が増えるのではないか」「生物多様性保全では、地域での地道な活動が重要なのではないか」など、参加者の方々からも活発な意見が出る有意義な場となりました。



シンポジウムの様子



ロビーにおけるパネル展示を、京都水族館や京都生活協同組合、三菱自動車工業(株)京都製作所などのご協力のもと行いました

終了後には、関連イベントとして昆虫標本、薬用植物、牧野富太郎ゆかりの植物の展示を行いました。多くの皆様にご参加いただき、参加者同士や登壇者との意見交換など、若者も含めて多様な方々が交流する機会となりました。



標本や植物の展示を、府立植物園・武田薬品工業(株)京都薬用植物園のご協力のもと行いました



多くの方々がステージに集まり標本などを熱心に見ていただきました

京都のいきもの・自然を知ろう！体験して楽しもう！

「きょうと☆いきものフェス！2023」初開催！

自然に関わる活動の紹介等を通じて、生物多様性についての理解を深めるイベント「きょうと☆いきものフェス！2023」を、令和5年10月8日・9日に京都で初めて開催しました。生物多様性に関わる府内の約50団体・企業・個人等が京都府立植物園に大集結し、ブース展示やワークショップ、自然観察会、講演会、活動発表会、活動交流会を通じて情報発信を行い、参加者同士で交流を深めるとともに、子どもから大人まで幅広い世代の方々に生物多様性について学んでいただく機会となりました。

ブース展示

30以上の団体が地域の生きものの説明や日頃の活動紹介を行いました。展示室は出展者や参加者の活気であふれ、濃密な交流を行うことができました。子どもたちには、鴨川の魚や木津川のスッポンなどが大人気でした。



展示室の様子



ブースの様子



生きものに触れる展示

ワークショップ & 自然観察会

池坊華道会のご協力による、鴨川に咲く花をいけ、その面白さ、美しさを見つめた「外来植物いけばな」、自然界における「香り」の役割を知る講演、京都府医薬品登録販売者協会のご協力による薬草を健康長寿の視点で学ぶ「薬草よもやま話」など、生きもののもつ魅力を、様々なワークショップで体験いただきました。屋外では、2日間にかけて、大きな圧巻の竹蛇籠が制作されました。野鳥観察会ではカワセミを見つけて皆さん大満足、ドングリを学ぶ自然観察会も実施されました。



鴨川でいけばなの素材探し



野鳥観察会



竹蛇籠づくり体験



押し花でしおり作り



高所作業車からタネの散布体験



生きもののおおきさを比べるワークショップ

講演会

当センター進行のもと、湯本センター長をはじめとして、保全団体や研究者等の方々から「京都の生きものの面白さ」について語っていただきました。

活動発表会

府内の保全団体が集まり活動している「自然環境保全京都府ネットワーク」が実施した活動発表会では、小学生から高校生までの若手による発表も行われました。

活動交流会

「生物多様性保全の担い手の拡大」をテーマに、保全活動に取り組まれている学生や保全団体の方々から取組内容をご紹介いただくとともに、講演者と参加者の皆様で自由に意見交換を行い交流を深めました。

きょうと生物多様性センター 令和5年度 活動トピックス

収集

生物多様性情報のデータベース構築から見えること

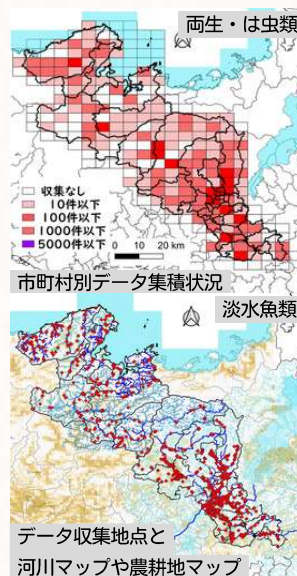


当センターでは、生物多様性情報の集積や利活用のためのデータベース構築・地図化に取り組んでおり、12月には「京都の自然の面白さ」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。多様な分野の先生方から、京都の地質や地形、空間と生きものに関わりについてご講演いただき、参加された方からは、データベース拡張を期待する意見や、府民から情報を募る生きもの調査の実施を望む声が上がりました。

さて、生物多様性情報が集まると、どんな良いことがあるのでしょうか？京都の様々な地域における生きもの情報を集め、類似点や相違点、その地域・生きものにしかない特徴に目を向けることは、『なぜ、ここに、その生きものが生息しているのか？』という生きものストーリーを紐解くことに繋がります。このストーリーを解き明かせば、きっと京都の自然史の新しい価値と楽しみ方を発見することができるでしょう。

今後、集積した生物多様性情報が広く活用され、生物多様性保全の取組のさらなる一歩を踏み出す契機になるとともに、長年の自然史学の蓄積に新たな技術や視点が出会う手助けとなることを願っています。

図：生物多様性情報データベースからの情報の見せ方（一例）



収集

標本デジタル化システムの導入



企業からのご寄付により、動植物標本のデジタル化システムの導入を進めています。本システムを活用し、府内の様々な施設が保有する標本や資料、学校や地域、個人が所蔵されている貴重な標本や過去の資料について、今後デジタル化を行い、府内全域の生きものに関するデータの収集や活用を進めていきます。システムの導入を記念し、令和6年3月に「京都の文化と生物多様性」をテーマとして、近年のデジタルアーカイブの流れや、府立植物園の貴重な標本や資料、博物学など様々な観点から京都の文化と生物多様性の関わりについて学ぶフォーラムも開催しました。



導入イメージ
兵庫県立人と自然の博物館
標本撮影スタジオ室提供



利活用

企業との連携

株式会社SCREENホールディングス様と連携し、亀岡市宮前町宮川区にある「SCREENの森」において、従業員とご家族の皆様を対象に生きもの観察を行いました。

当センターがコーディネートし、地域の保全団体である「NPO法人 亀岡人と自然のネットワーク」の方を講師に迎えて、様々な生きものを観察することができました。

参加者は「田んぼ班」と「川班」に分かれ、夢中になって捕まえたヘビトンボやタイコウチなど様々な生きものについて、講師の先生の説明を聞きながら、楽しく学んでいただきました。



当日の様子

利活用

保全活動の支援

5月20日、地域の小学校のPTAの皆様と連携して、夏の水泳授業に向けてプールを掃除する前に、プールの中にいる生きもの観察会を行いました。

約150人もの皆様にご参加いただき、トンボの幼虫のヤゴ約800匹のほか、様々な生きものを観察することができました。

参加者からは、「プールにこんなに色々な生きものがあるとは知らなかった」などの声が聞かれ、身近な自然に目を向ける機会を創出することができました。



当日の様子



生物多様性保全に係る若手人材を育成するため、若年層を対象に、府内各地域の生物多様性とその保全活動について学習・体験する研修会を3回にわたり実施しました。

令和6年2月には、2回にわたり、やましろ里山の会のご協力のもと、「きょうと☆いきものフェス! 2023」のワークショップで製作した竹蛇籠を実際に設置し、伝統的な河川工法について学びました。

令和6年3月は、大原野森林公園における希少植物とその環境づくりを学ぶため、管理者である大原野森林公園運営管理協会のご協力のもと、同公園の成り立ちや保全活動を教わるとともに、その現場を巡り、希少植物の保全環境を見学し、防鹿柵の管理作業を体験しました。

～河川保全を知る～



竹蛇籠の設置作業
(木津川)

～森林保全を知る～



防鹿柵の管理作業
(大原野森林公園)

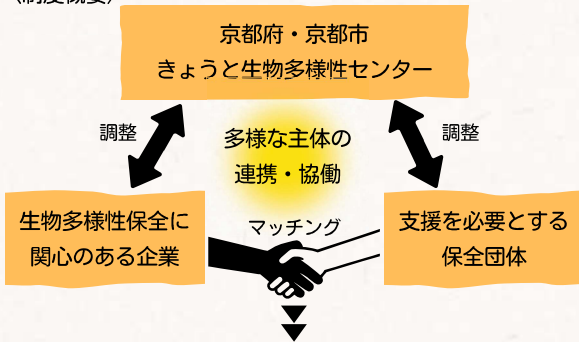
(公財) 日新電機グループ社会貢献基金様と

「きょうと生物多様性パートナーシップ協定(第1号)」を締結しました!

本制度は、京都府域の生物多様性保全を推進するため、生物多様性保全に取り組みたい企業と保全団体とのマッチングを図り、協定を結ぶことで、効果的かつ持続可能な生物多様性保全の取組を展開する制度です。

当センターは、令和5年10月に、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、京都府、京都市との4者で、第1号となる協定を締結しました。初年度は、京丹後市の琴引浜の鳴き砂の保全活動をしている団体への支援に加え、現地での活動にも参加していただきました。令和6年度も引き続き、ご支援をいただく予定です。

〈制度概要〉



協定締結式

〈写真左から 門川大作 前京都市長、湯本貴和 センター長、齋藤成雄 (公財) 日新電機グループ社会貢献基金 理事長、西脇隆俊 京都府知事〉



琴引浜での活動の様子

「琴引浜の鳴り砂を守る会」や「琴引浜鳴き砂文化館」の方々を講師に、マイクロプラスチックをはじめとする漂着ごみの調査や、鳴き砂の不思議、微小貝探しなど琴引浜の生物多様性に触れる活動を実施しました。



漂着ゴミの一部

きょうと生物多様性パートナーシップ協定の締結

編集後記

広報誌を発行するにあたり、センターを設立してからの1年間を振り返ってみたところ、「こんなにやってたの!？」と驚くほど載せたいトピックスが多く、内容を絞るのが大変でした。当初4面で作る予定が、皆で話し合い、あれもこれもと追加した結果6面に…(笑) 事業内容も多岐に渡っており、私たちに何ができるのか試行錯誤しながら、センター職員総力戦で駆け抜けてきた1年をギュッと詰め込んだ第1号になりました。(國島)

賛助会員の募集

当センターでは、個人や企業、保全団体などに幅広く参画いただき、力を合わせて京都の自然環境を守る取組を進めていきますので、ぜひ賛助会員としてご支援をお願いいたします。詳しくはセンターまでお問合せください。

問合せ先

【本部オフィス】 京都府立植物園 植物園会館内 〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町

【交流オフィス】 左京区役所2階⑭番窓口 〒606-8511 京都市左京区松ヶ崎堂ノ上町7番地の2

開館日 毎週月曜日、水曜日、金曜日 午後1時～午後5時(祝日・休日・年末年始を除く)

☎ 電話番号: 075-354-5275

✉ メール: contact@kyotobdc.jp

🌐 HP: <https://www.pref.kyoto.jp/biodic/index.html>

発行: きょうと生物多様性センター 令和6年3月



HP



X (旧Twitter)



Instagram